

夏合併号 【2010年7月1日 木曜日】



Walking

『伊豆歩倶楽部』会報

伊豆歩の歌 詠み人知らず

歩歩歩（ふふふ）の歩（ふ）
緩歩で観歩
歩歩歩（ほほほ）の歩（ほ）
歩歩笑美（ほほえみ）
伊豆歩は 歓歩で完歩

第89回 伊豆歩倶楽部 7月例会

「江川坦庵」を訪ねて 15 Km

ウォーク日本1800 静岡県37ウォーク伊豆の国市大会

狩野川のほとりを歩き、北条氏（願成就院）、江川氏（江川邸）、反射炉など
貴重な建築や歴史を訪ねる。

【日程】 2010年7月11日（日）

【集合場所】 伊豆箱根鉄道駿豆線 葦山駅東口

【集合時間】 9時30分（電車利用者は各自確認して下さい）

【ゴール時間】 15時30分（予定）

【コース】 葦山駅 成福寺 政子の産湯の井戸 狩野川松原橋
あやめ橋 千歳橋 真珠院 願成就院 反射炉
本立寺 江川邸 城池親水公園 蛙ヶ小島 葦山駅
駐車場あります。（葦山文化センター 大駐車場）

（注）会員は必ず名札を付けて下さい。

* 出発式に、伊豆の国市長・望月良和さんの挨拶があります。多くの参加をお待ちしています。

第90回 伊豆歩倶楽部 8月例会

「巡視船見学といい湯だな」ウォーキング 10 Km

最新鋭巡視船「あまぎ」（1350トン）の見学をして、伊豆東浦路を歩いて温泉に入り（ホテル伊豆急）
汗を流して暑気払いがまっています。

【日程】 2010年8月22日（日）

【集合場所】 ベイ・ステージ下田（道の駅「下田みなと」）

【集合時間】 9時45分（伊東発 8時18分）

【ゴール場所・時間】 白浜神社 14時30分（予定）

【コース】 ベイ・ステージ下田 下田市内 鍋田 和歌の浦 下田海上保安部
蓮杖公園（昼食） 下田ロープウェイ 寝姿山林道 伊豆東浦路
白浜神社

【会費】 1,300円（ロープウェイ・入浴代）

* 遠方からの参加者は、伊豆急下田（降車口）12時30分

* 巡視船「あまぎ」の見学は、都合により中止の場合もあります。

「暑気払い」 とん亭 16時00分 【会費】 男性5000円 / 女性4000円

楽しい福引き大会を行います。家で眠っている品、使わない品がありましたら当日持参して下さい。

「暑気払い」のみ参加者も大歓迎！！

【問い合わせ】 伊豆歩倶楽部事務局（笹本）TEL・FAX：0558-22-5465

第91回 伊豆歩倶楽部 9月例会

「浪漫薫る名邸を訪ねて」 15 Km

ウォーク日本1800 静岡県37ウォーク in 熱海大会

SWAマーチングリーグ

坂道や古い民家の街並み。多くの文豪、芸術家、作曲家が訪れ、居を構えた地。
なつかしい文化の薫りが漂う熱海を歩いてみませんか。

【日程】 2010年9月26日（日）

【集合場所】 JR熱海駅

【集合時間】 9時30分（伊豆急下田発7時38分・伊東発8時48分・東京発7時24分）

【ゴール時間】 15時30分[予定]

【コース】 熱海駅 人車鉄道熱海駅 筆塚（尾崎紅葉） 池田満寿夫創作の家
お宮の松 起雲閣 熱海梅園 来宮神社 来宮駅
【問い合わせ】 伊豆歩俱樂部事務局（笹本）TEL・FAX：0558-22-5465

例会報告

第88回 伊豆歩俱樂部 6月例会

「武家の古都」鎌倉ウォーキング 10 Km

2010年6月6日(日) 天候 晴れ

参加者：49名(会員45名・一般4名)

南伊豆町を五時に出発。予想された渋滞もなく予定よりも早く鎌倉に到着する。空は青空、絶好のウォーキング日和である。スタートの「成徳院」で現地からの参加者と合流する。伊豆歩の元気のよい「檄」に、道行く観光客も笑顔で眺めていた。「長谷寺」「高徳院・大仏」「銭洗弁財天」と見学しながら市内をウォーキングする。昼食は「源氏公園」である。頭上でトンピカラスがおむすびを狙っている中であつた。午後は「仮粧坊通」「亀ヶ谷切通」を越えて、「建長寺」、そしてゴールの「鶴岡八幡宮」に到着した。突風で倒れた「大銀杏」からは、新芽が無数に噴き出していた。生命力の強いパワーをいただいた。帰宅のバスの中では、元気のいい会員の声がかき渡っていた。

事務局便り

2010年度 ウォーク日本1800 静岡県マーチングリーグ実施計画

開催月日				ウォーク日本	マーチング	担当団体	事業名	主催地	距離
年	月	日	曜日						
22	7	11	日			伊豆歩俱樂部	江川田庵を訪ねて	伊豆の国市	18
	7	17	土			富士歩っ人クラブ	新住富士宮市の歩く博物館めぐり	富士宮市	
22	8	28	土			静岡ウォーキング俱樂部	サッポロビール見学と焼津古道	焼津市	
22	9	12	日			掛川歩こう会	富士山静岡空港開港一周年記念ウォーク	島田市	25・15
	9	26	日			伊豆歩俱樂部	浪漫薫る名邸を訪ねて	熱海市	15
	9	26	日			東静歩こう会	トンボの里 桶ヶ谷沼	磐田市	20

- ・伊豆歩俱樂部(笹本社長 0558-22-5465) ・東静歩こう会(大嶽信久 055-951-1172) ・富士歩っ人クラブ(味岡和子 0545-61-5420)
- ・掛川歩こう会(松浦茂 0537-22-7989) ・旧東海道宿禰と真ん中実行委員会(杉山重好 0538-23-5371)
- ・静岡ウォーキング俱樂部(服部芳雄 0538-44-6170)

「伊豆東浦路調査委員会」活動報告

・第三回調査 5月27日(木) 今井浜から奈良本まで

河津町・見高海岸から上がって歩道橋で国道を横切り東伊豆町に入る。各所で古道は寸断されている。稲取で栗田家の前の置石は昔から東浦路を歩く人々の目に触れてきた。伊豆急行線の線路のガードをくぐって上がっていく。稲取高校の下を国道トモロトンネル上の道に向かう。ここは昭和53年1月の「伊豆大島近海地震」で海岸を行く旧県道も復旧不可能で廃道になっている。今回はこのめちゃくちゃになった廃道を石、木をかき分けながら進んだ。やっとの思いで白田側に抜けた。最後の難所は、片瀬海岸から急坂を登って奈良本に出る道である。気合を入れないと越えられない坂道であった。

参加者 - 邊津 笹本 清水

・第四回調査 6月3日(木) 奈良本から伊豆高原まで

伊豆急・熱川駅から出発点の奈良本までは、かなりの登り坂である。別荘地で拡張された道路を歩く。北川では、一部農家のミカン畑の脇を通らせてもらう右側が断崖絶壁である。抜けると眼下に海が広がり最高の眺めである。ここまで歩いてきた東浦路の中で一番の景色である。天気もよく海がキラキラと輝いている。北川漁港、国道、伊豆急線路、旧道が一望できる貴重な場所である。大川に降りて、海岸端の「大川三島神社」に立ち寄る。熱海から黒船を追いかけた来宮村が野宿をしたと言われる境内である。大川から旧日大セミナーハウスの横を通ってひたすら山を登る。けっこうきつい登り坂である。言葉も消えて、ただ山を目指す。赤沢では、古道を抜けて行くと突然、伊豆急電車が走っていてビックリした。伊豆高原周辺は伊豆急行の工事で古道が各所で寸断されていた。

参加者 - 杉本 邊津 笹本 清水 千葉 渡辺

新入会員紹介

No.733	鳥沢昌子	伊東市
--------	------	-----

みんなで楽しく歩きましょう ~

会員ウォーキング記録

- ・I V V距離記録達成 4000Km 本田勇 (No.101)
 - ・I V V歩数記録達成 250回 本田勇 (No.101)
- おめでとうございます

「平成22年度会員名簿」の修正とお詫び

4月の「総会資料」に添付してあります「会員名簿」に誤りがありましたので、お詫びを申し上げますとともに、修正をお願いいたします。正しい名簿は下記の通りです。

- ・会員 No.727 竹の内 (正) 竹の台

鎌倉ウォーキングに参加して

伊豆歩俱樂部会員 432 古見ふみ子

今回の例会は所用のため、茅ヶ崎に前泊しておりましたので現地からの参加とさせていただきます。前夜八時頃から湘南地方はかなり激しい雨が降りはじめ、天城、城ヶ崎、鉢の山と、私の参加した例会はかなりの確率で雨に見舞われているのでまたかと言う思いでしたが、明けて翌朝は織子のハイキング日和となりホッとしたのも束の間、江ノ電の時間を読み違い集合時間に遅れてしまい、皆さまにご心配をお掛けしながら長谷観音にて合流することになりました。

『極楽寺坂越え行けば 長谷観音の堂近く 露座の大仏おわします』古い唄の一節を口ずさみながら高御淵に到着、五百年もの長い時を雨ざらしの苦行に耐えながら私達を見守ってくださっている阿彌陀さまに手を合わせ行程の無事を祈りつつ、次の目的地 銭洗弁天に向かいました。ここは初めて訪ねるところでしたので、知名度の高さから大きな伽藍を想像していたのですが意外でした。本殿脇の岩屋の湧水にお金を浸してその倍音を願ったのですが、本来は参拝することによって安心を得て健康に留意し無事に暮らしその結果、収入も増えるのであろうと思いつつも、せっかちな私はしばらくの間お財布を覗き続けるのでしょね。

源氏山公園での昼食の後、軍事都市鎌倉の特徴的な切り通しを辿り建長寺へ、ここは何度参拝しても規模の大きさ、設計の骨太さに圧倒されてしまいます。総門に掲げられた、『三福山』の扁額も渡来僧・一山一寧の書と伝えられておりこの方は元寇の折、スパイの疑いをかけられ伊豆松崎の掃一寺に幽閉されていた事があり歴史に興味のある私は、北条と伊豆の関わり、昨年訪ねた菴山や修善寺を思い出しながら境内を散策いたしました。

そして、鶴岡八幡宮へ、階層脇の大銀杏は倒れてしまったけど公暁や実朝に思いを馳せながら、その後小町通りでのショッピング。今回は歩数、距離のウォーキングでしたが、天候や仲間にも恵まれ充実した楽しい一日を過ごす事ができました。伊豆歩俱樂部の皆様ありがとうございました。

さすらい人京さん(13)

伊豆歩俱樂部会員 402 大窪 正幸

お久しぶりでございます。再び登場、また、さすらわせて頂きます。再登場の理由は、もう少しさすらいたいなと思ったからです。今日は、新橋から新宿の東京都庁にさすらいましょう。日比谷公園を一周して霞ヶ関の官公庁街、右手に国会議事堂がそびえ、左手には皇居桜田門、桜田壕。「京さん」同様ウォークされている方とすれ違います。皆さん楽しそうです。

どこまでウォークされるのでしょうか。国会議事堂を横に見て、少し早いです。今日の目的地の一つであった憲政記念館に立ち寄りリッチな気分になります。東京のど真ん中にこんな緑に囲まれた素晴らしい所があるのです。信じられません。コーヒーの味もまた格別です。すばらしい景色、時間は静かに流れていきます。時間が早いらしくお客さんもまばらです。今の、新緑も良いのですが、桜の季節の時がよいようです。

ここで終わりたい気持ちを押さえて緩い上り坂を、約15分半蔵門交差点を左折、新宿御苑の匂いがしてきました。あと約15分、丹下健三建築士の設計の東京都庁が見えています。東京都庁が「京さん」を待っています。あと10メートル無事元気にゴールしました。また「京さん」のゴール地点は、2月開催の東京マラソンのスタート地点でもあったのです。無事ゴールを祝ってこれから「京さん」は青春時代の思い出の場所「思い出横丁」に足を向けます。数年前火災に遭いましたが、再建され営業を再開しています。当時、天井50円、味噌汁10円。青春時代の思い出の詰まった細い路地を目指して自然と足早になります。

一句 彼岸寒 久しぶりだよ 都会かな

「次回 鎌倉・江ノ島

【 伊豆歩俳壇 】

〔「武家の古都」鎌倉ウオーク〕

早わざやおむすびひとつ ^{とび} 鳶つかみ
七変化 仏千手に われの二手
あじさいに 雨が似合と 人は言う

邊津 芳次
大窪 正幸
大窪 正幸

【 伊豆歩短歌 】

解禁日 釣り人群れる狩野川の 水は流れて浄蓮の滝

石田 喜一郎

蛙鳴き 雲見の里に雨降れば 波勝岬も寂しく霞む

石田 喜一郎

【 いずほ歌留多 ^{かるた} 】

政子も

おみあし運びし

化粧坂

大窪 正幸

鎌倉や

けんちん汁の

建長寺

大窪 正幸

- ・ホームページアドレス <http://www.izuhorclub.com>
- ・メールアドレス info@izuhorclub.com
- ・投稿記事その他ご意見・ご感想をお寄せ下さい。「伊豆歩俳壇」・「いずほ歌留多」・「伊豆歩歌壇」にも一句・・・皆様の参加をお待ちしています。 会報への投稿は、毎月20日までにお願致します。
- ・伊豆歩倶楽部事務局 TEL&FAX 0558 - 22 - 5465
〒415-0038 下田市大賀茂301 笹本社長 宛まで
- ・発行者：伊豆歩倶楽部事務局

都合により、『伊豆歩倶楽部会報 Walking』の8月号はお休みさせていただきます。次号52号は9月発行予定。

平成22年度 伊豆歩倶楽部新規会員募集

伊豆歩倶楽部入会ご希望の方は、お気軽に事務局（笹本 0558-22-5465）までお問合せ下さい。

【会費】 入会金 1,000円
年会費 2,000円（家族会員 1,000円）
日本ウオーキング協会 維持会員 年会費 2,000円

【納入方法】 郵便振替用紙にて「通帳番号10150-記号57680821 伊豆歩倶楽部」宛に納入して下さい。
例会等へ現金を持参の方は、封筒にお名前・入金額を記入の上、伊豆歩倶楽部の受付へお渡しください。

下田市吉佐美 ペンション ゲストハウス アーヴァン

吉佐美大浜駐車場目の前の好立地 水着のまままで海までGO！！

海水浴・サーフィンなど海を遊びたい人歓迎！！ カップル・家族・グループ旅行にご利用下さい。

【9月4日（土）・5日（日）ビッグシャワー-in 吉佐美大浜 海の祭典をエンジョイ！！】

夏のご宿泊 承り中！！

「Walkingを見て」とご予約下さい。

静岡県下田市吉佐美 2620 0558-23-2635

<http://www.e-urvan.com> info@e-urvan.com



吉佐美大浜海水浴場

1943年出陣学徒壮行会の学生代表

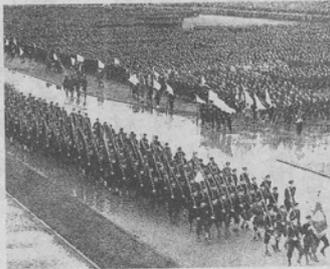
「答辞を読んだのは偶然」

江橋元初 教授



江橋慎四郎さん

出陣学徒壮行会 戦況の悪化で徴兵の猶予されていた20歳以上の学生が徴兵の対象になったことを受け、戦地に赴く学生を激励しようと、1943年10月21日に東京の明治神宮外苑競技場（現・国立競技場）で開かれた。77の大学などの学生2万人以上が制服姿に銃をかついで行進。観覧席では見送りの家族など約6万5000人が見守った。



1943年10月21日、明治神宮外苑競技場で行われた出陣学徒壮行会

「生等（我ら）もとより生還を期せず」。1943年秋に東京・明治神宮外苑で行われた出陣学徒壮行会

で、戦地に赴く学生の代表として、その答辞を読み上げた江橋慎四郎さん(89)（東京大学元教授）が13日、答辞を読んだいきさつを初めて公の場で明らかにした。外地で亡くなった戦友を思って沈黙を守ってきたが、卒寿を前に事実を語ることにした。14日で90歳になる江橋さんは、東京都内のホテルで開かれた「卒寿をお祝いする会」の席上、東大時代の教え子ら約1000人の前で

静かに語った。江橋さんは当時、東京帝国大の文学部生。行事などで学生の代表を選ぶ場合、各学部から順番に出す決まりがあり、壮行会は文学部の番に当たっていた。さらに、江橋さんは水泳部マネージャーや体育会の運営を取り仕切る「総務」などの役職にあった。「それが答辞を読むことになった理由で

はないか。優秀な学生だったわけではなく、交通事故のような偶然です」。そして、「どういふわけかあいう目にあった。あまり幸せではなかったけれど」と心境をのぞかせた。昭和の名文とも言われる答辞の文章については「もとの文を国文学の先生に添削してもらった。私にはあ

あいう宣言文は書けませんと明かした。江橋さんは航空整備兵などとして内地にとどまったが、壮行会に臨んだ多くの学生が戦地で命を落とした。その無念を思っただけで、江橋さんはこれまで、壮行会についてほとんど語ることはなかった。教え子の一人は「壮行会から67年。真実をきちんと残すべきだと思っようになったのでは」と話している。